

教育長室だより

第 10 号

2019.3.13

あちらこちらで蜂須賀桜が一足早く満開です。いよいよ春爛漫の好季節。

子どもたちは1年の勉強を終えて次の学年に、また最上級生は“卒業”季節となりました。別れそして出会い…、ゴールとスタートが同時に訪れる、春は何かと落ち着かない時期でもあります。

子どもさんの様子をしっかり見てあげてください。何か前向きな意思を持って行動していれば、大いに背中を押してあげてください。

○

この「教育長室便り」は今回が10号目で、今年度の最終号です。

“月1回を目安に”始めましたが、やや少ない回数になりました。今年1年は、わたし自身が長く子どもに関わってきて、ずっと思ってきたことを少しずつお話しするようなものになりました。繰り返してお伝えしたいこともあり、来年度も一部同じような内容になることもあるかと思えます。

○

今年も教育に関する様々な話題が、ニュースの題材になりました。ブロック塀倒壊の問題、熱中症対策の問題、保護者による虐待の問題、そしていじめの問題もあいかわらず続いています。どれも教育の基盤である子どもの安心、安全に関わる問題です。

○

わたしは子どもの教育の課題を考えるときいつも2種類に分けて考えます。

一つは、通常より良くない状態にあるものを通常のレベルまで回復させなければならないような課題です。壊れやすい状態の通学路のブロック塀を改修する、けがが急増しているという現状が生まれればその原因を突き止めて改善するなどの課題です。これを課題A群と呼ぶことにします。

もう一つは、今特に困っている問題ではないけれど今後さらに向上を目指したいという課題です。読書の習慣をより多くの子どもに定着させる、望ましい運動習慣を身につけさせるなどの課題です。これをB群とします。

○

A群の課題は急を要する喫緊の課題であることが多いことになります。時に一定の費用がかかってもすぐ対応する必要がある場合がほとんどです。よく報道にも取り上げられ、社会問題化することもしばしばあるので、取り組みへの合意も得られやすく、素早い対応がしやすい特徴があります。

○

一方でB群の課題は、差し迫った困難ではないので、緊張感を伴う焦点のはっきりした取り組みにならないことも往々にしてあります。一朝一夕に解決できないものが多く、長い時間をかけてじっくりと取り組むべき課題であることも特徴です。

○

さて、どうして2種類に分けて考えるかという、A群の課題はいつも私たちの目の前に突きつけられるので、そんなに考えなくても解決に向かって進んでいきやすいという特徴があります。それに対してB群の課題は常に意識して取り組まなければなおざりにしてしまいかねない、もっと言えば、B群からいくつかを選択していわゆる「重点課題」としなければ取り組めない課題かもしれません。だからこそ、関係者でよく共通理解し、意識の表において取り組む工夫が必要になります。

○

A群よりB群が大事と言っているわけではありません。どちらも大事です。

ただ、考え方によっては、B群に取り組むことによってA群の課題がいつの間にか解決していたというようなことがあるように思うのです。

例えば、けんかやいじめの多かった学級で、ある先生が直接けんかやいじめについての指導をする前に、毎時間の授業内容を面白くよくわかるものにするため、教材研究に力を注いで授業改善をしていったところ、子どもたちの授業への姿勢が急速に良くなり、けんかやいじめが次第になくなっていったという事例を読んだことがあります。

子どもたちの世界も大人と変わらずいろいろな複雑なものを含んでおり、常にストレスをためています。そして、当然一人一人違った個性を持っており、公式に当てはめたような指導が功を奏するとは限りません。毎日の生活の中で、この授業はおもしろかったとか、褒められてうれしかったとか、自分の思いが実ったとかということがたとえ生活の一部にでもあるからこそストレスやしんどさに打ち勝って生き生きと生活し、成長できます。

○

わたしたちはたいへん忙しい社会で暮らしているので、だいたい「遠回りより近道」を選んでいきます。効率をすごく大事にしています。けれどもこと教育に関しては近道はないとよく言われます。

保護者や先生には、目の前の課題だけでなく長い目で考えられる余裕を持って子どもを眺めてほしいと思います。その遠回りが実は近道だったりするのだと思います。

親御さんの心の余裕は、一つはゆっくり子どもと接する時間を持つことで生まれると思います。難しいのはわかっています。しかし、ものすごく重要であることも確かです。企業などの職場を含む世の中全体で考えてほしいことです。

そしてまた、教師の働き方改革が叫ばれ、教師の長時間労働が社会問題になっています。勤務時間の短縮を進める動きがあります。

しかし、子どもにとって重要な教師の心の余裕は時間短縮によってだけ生まれるのでしょうか。様々な考えが表れては消えています。

これについてもみんな考えなくてはなりません。子どもを持つ保護者の方々も仕事の場である企業や様々な組織もちろん教師集団も含め、社会全体で考えてほしいことです。